HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大十月革命前夜の全ロシア教員組合運動史
Author(s)	所, 伸一
Citation	北海道大學教育學部紀要, 31, 267-296
Issue Date	1978-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29181
Type	departmental bulletin paper
File Information	31_P267-296.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

大十月革命前夜の全ロシア教員組合運動史

所　　伸一

Из истории движения Всероссийского учительского союза накануне Великой Октябрьской революции

Синъити Токоро

目　　次

はじめに…… 267
Ⅰ　二月革命前夜の教員の動向…… 268
　1）リベラル教育相イグナーチェフの教員政策…… 268
　2）全ロシア教育会内部の教員組合再建要求…… 270
Ⅱ　二月革命後の教員の活動の開始…… 275
　1）両首都教員の全ロシア組合再建準備…… 275
　2）各地の教員組合結成の動向…… 280
Ⅲ　全ロシア教員組合の再建…… 286
　1）三大教員大会…… 286
　2）全ロシア教員組合再建大会…… 289
結　び…… 292
附録 ── 資料：全ロシア教員組合規約（1917年4月7～9日，採択）…… 293

はじめに

小稿の課題は，大十月社会主義革命の時代（広義の）のロシアに存在した有力な教員団体である「全ロシア教員組合（Всероссийский учительский союз＝ВУС）」が1917年2月のブルジョア革命を経て再建されてゆく過程を叙述すること，及びこの再建された教員組合の組織的性格を検討することである。

この全ロシア教員組合に関する従来の研究ないし言及は，凡そ，この組合の生涯の二つの時期に集中してきた。つまり，一つは，1905～7年の第一次革命期の全ロシア教員組合の形成過程とそこにおける「組合」の性格をめぐる論争の検討〔イェルマン『第一次ロシア革命における知識人』[1]（1966年）；竹田正直「教員組合運動の展開と論争」[2]（1976年），等。〕であり，いま一つは，1917年十月革命後の時期におけるこの組合の反ソヴェト行動とこれに対するソヴェト政権・ボリシェヴィキーによる克服の過程の発掘〔オスノス「十月直後の知識人の歴史」[3]（1940年）；ヴィトゥフノフスキー「ソヴェト政権初期数カ月間の教師をめぐる闘争」[4]（1956年）；カラリョーフ「大十月社会主義革命遂行期の教員をめぐる闘争」[5]（1958年）；フェドートワ「初期の全ロシア教員大会における共産党の戦術（1918年の反革命的全ロシア教員組合の崩壊）」[6]（1966年），等。〕であった。

こうして第二次ロシア革命（1917年2月）期の全ロシア教員組合の運動についてはほぼ等閑視される状況が続いていた。唯一の例外とみなしうるのは，故カラリョーフがその労作『ソヴェト学校・教育学史論集 1917-1920年』[7]（1958年）の中で，二月革命後の全ロシア教員組合の再建と教員諸大会の内容に言及したことであった。

カラリョーフの同書は，二月革命期教育史のみに領域を限定しても，今日までで最も秀れた活潑な研究と目されているものである。[8] しかしながらこの労作においても未だ，全ロシア教員組合の運動に関しては，1905～7年の論争点や諸経験との関連が明らかにされておらず，従って，再建されたこの教員組合の組織的性格についても論及されていない等の空白が残されているのである。[9]

われわれの研究の意図は，差当り教員運動史におけるかかる空白を満たすことにあり，それによってロシア・ソヴェト教育史の連続的（当然な）叙述に参加して行くことにある。

小稿が主として用いた資料は，総合教育雑誌『人民教師（Народный Учитель＝НУ）』の1917年の各号である。これは，モスクワ発行（1910～19年）の週刊誌で，ナロードニキ的傾向をもち，特に小学校教員のあいだでよく普及していたものである。

註

1）Л. К. Ерман. Интеллигенция в первой русской революции. М., 1966.
2）梅根悟監修『世界教育史大系 15 ロシア・ソビエト教育史Ⅰ』（1976年，講談社）中の第7章「第一次ロシア革命と教育運動」。
3）Ю. Оснос. Из послеоктябрьской истории интеллигенции. «Историк-марксист», 1940, №. 8 (кн. 84), стр. 28-45.
4）Г. В. Витухновский. Борьба за учительство в первые месяцы советской власти. «Советская педагогика» [в след. — СП], 1956, №. 11, стр. 71-82. 拙訳，北海道大学教育学部教育史比較教育研究室『教育史論考』No. 6（1972年6月）所収。
5）Ф. Ф. Королев. Борьба за учительство в период проведения Великой Октябрьской социалистической революции. В кн.: Его же. Очерки по истории советской школы и педагогики (1917-1920). М., 1958, стр. 124-145.
6）З. Ф. Федотова. Тактика Коммунистической партии на первых Всероссийских съездах учителей (Разгром контрреволюционного Всероссийского учительского союза в 1918 г.). «Вестник Ленинградского университета», №. 20, серия истории, языка и литературы, 1966, вып. 4, стр. 34-43. さらに最近の研究では次のものを参照。С. А. Федюкин. Великий Октябрь и интеллигенция. М., 1972, стр. 172-188; 竹田正直「中央及び地方における教育行政機構の改革と教員組合運動」，梅根悟監修『世界教育史大系 16 ロシア・ソビエト教育史Ⅱ』（1977）中の第9章「大十月社会主義革命期の教育」。
7）Ф. Ф. Королев. Указ. очерки, стр. 61-63.
8）См. СП, 1975, №. 7, стр. 101.

第Ⅰ章 二月革命前夜の教員の動向

（1） リベラル教育相イグナーチェフの教員政策

ロシア・ブルジョア層は，1914年11月の右翼教育相カソー（Л. А. Кассо, 在任 1910. 9. 25-1914. 11. 26）の死を契機として，専制教育省の政策を一せいに批判し始めた。ロシアの学校は「強い」ロシアに必要な，且つ革命からの要害としての彼らの求める人材を育てていないということがその理由であった。こうした時，1915年1月9日教育大臣に任命された人物が，能吏として知られていた伯爵イグナーチェフ（П. Н. Игнатьев, 1870-1926）であった。

大地主・大工場主でもある開明派のイグナーチェフは，ブルジョア指導者層にとっては極めて妥当な人物だった。カデット紙『レーチ』や代表的カデット議員シンガリョーフなどは，

イグナーチェフは「その前任者とは丸きり正反対であることは疑いない」と書き，語った。[1]

またイグナーチェフ自身これにこたえるべく精力的に活動した。*

彼は就任直後の1915年2月20～27日，全国の学区総監をペトログラードに招集した会議の席上，「教育の領域の働き手ならびに指導者は，住民の気持を完全に理解しなければならない……」と所信を述べ，さらに，教育事業における私人のイニシャチヴを承認すること及び生徒の父母の意向を汲む必要を述べ，「教員は，その仕事から精神的充足を得られるような地位に置かれなければならない……」と締めくくった。[3]

イグナーチェフには，産業家の団体の他にも，職員会議（ギムナジア等の），教員互助会，研究サークル，等から手紙が寄せられ，総じて，反ツァーリの立場にたつブルジョア層および小ブルジョア層（教員大衆を含む）からの広範な精神的支持が寄せられた。しかしロシアの政治機構と情勢が，彼のプランを正規の立法手続で実現するチャンスを与えなかった。1915年以降，黒百人組をはじめ極右翼層が，教育省の新しい事業に対しても，イグナーチェフ個人に対しても，公然と反対の声をあげてきたのである。イグナーチェフがそのプランを実現するためには，教育省の「回章 циркуляры」と教育大臣「命令 распоряжение」を発することによる方法しか残されていなかった。[4]

中等学校改革，初等義務教育，技術・農業教育というイグナーチェフの四つの主要なプランが実現の日を見なかったことはロシア教育史上，周知のことである。実現されたのは，中学校職員会議 педагогический совет，学級担任教官，父母委員会のそれぞれの役割の拡大だった。[5]

だが，ここで更に指摘したいことは，このような中学校における一定の民主化と併行して，イグナーチェフ期には，教員互助会ないし共済組合の類の教員団体の広範な普及，発展および全ロシア的統一が促進されたことである。すなわち，「教育学上の問題やその他学校問題について教員の間で頻繁に交流をもつことが有益であることを全面的に承認した」教育相イグナーチェフは，「こうした交流を助長するために」1875年8月5日付旧規則に代わる，短期講習所及び講習会の設置にかんする新規則をつくることを決め，[6] さらに，1894年7月5日付の模範規約 нормальный устав[7] に代わる，新しい教員互助会模範規約を定める必要性を表明したのであった。

この新しい規約にもとずいて結成されたサラートフ県の一教師協会は，1917年1月1日付の電報で次のように，イグナーチェフの辞任を惜しんでいる。

——閣下の御提案に従って作られた新しい規約を採用したバラショーフの教師協会は，1月1日の集会において，閣下が国民教育相の地位を辞されたことに対して大いなる遺憾の意を表明すべく我が理事会に委ねました。本教師協会は，学校改革の閣下の仕事の礎とされた諸原理の実現に全力を傾けるものです。又あわせて，閣下が遠くない将来再び国政革新の事業に積極的に参加されん事への期待を表明するものです。[8]

しかし，新しい規約は提案されたが，成立しなかったことを示すと思われる次のようなイグナーチェフへの送辞の一節も引いておこう。

——イグナーチェフ伯は，職業的教員団体の自由な成長と発展のための新しい型の模範規約を教員に与えることは，なし得なかった。[9]

---

* イグナーチェフの試み，つまり①中等学校改革の実施，②初等普通義務教育の導入，③技術・農業教育の拡充に対しては，モスクワ商業銀行理事会，モスクワ商人代表者集会，レーヴェリ戦時工業委員会などから多数の歓迎と激励の手紙・電報が寄せられた。[2]

以上から，教員の組織化にかんするイグナーチェフの役割について結論するなら，次の4項になるだろう。

1）教員同志の研究交流を是認した。

2）それを助長する制度の設置規則・模範規約をつくることを決めた。

3）教員の前に新しい規則・規約の内容を示したことがあった。

4）新しい規則・規約を結局，制定できなかった。

こうしたイグナーチェフ在任の2年間を，当時の教育運動の指導部は次のように総括している。

——イグナーチェフ伯爵指揮下の教育省の活動は，世論と真の教員勢力と生徒の利益への配慮において際立っており，学校と家庭を恐怖と敵意と憎悪とから自由にし，且つ教員を創造的な仕事のために解放する用意のある点で特筆さるべきものだったが，こうした活動は，国の精神の組織化と健全化と強化にとって極めて本質的で有効な要因となった。[10]

I-(1). 註

1）Н. А. Константинов. Очерки по истории средней школы. 2-е изд. М., 1956, стр. 163.

2）Там же, стр. 181.

3）D. M. Odinetz, Russian primary and secondary schools during the War, in P. N. Ignatiev, Russian Schools and Universities in the World War, New Haven, 1929, p. 100. 本書は，十月革命後アメリカへ亡命した3人の自由主義者たちの執筆による。つまり元教育相のイグナーチェフが序文を，ペトログラード市内の私立高専元校長のオヂネッツが第一次大戦期のロシアの初等・中等学校について，モスクワ帝大元教授（経済学）で第Ⅰ国会のカデット議員だったノヴゴローツェフ Новгородцев П. И. が同じく大学と工業高等専門学校について，それぞれ執筆している。

4）Константинов, Указ. соч., стр. 181-182.「回章」は各学区総監の署名が必要で，そこでの抵抗もあった。

5）父母委員会 родительский комитет は，学校（教師）と生徒と家庭を結ぶ民主的機関として設置された，第一次ロシア革命期の教育運動の成果であるが，その後の反革命によって形骸化されていた。

6）Odinetz, op. cit., p. 104.

7）教員互助会は，その大半が，1896年から1902年にかけて全国各地の郡や県につくられ，1902年末で，71の「会」が存在し，総数21,695名が会員となっていた。各互助会に平均すれば200～300名の会員数である。この団体の活動を規制していたのが，1894年に教育大臣命令として発行された「教員・元教員相互扶助団体模範規約」である。(Педагогический словарь, т. II. М., 1960, стр. 20-21;《Журнал Министерства Народного Просвещения》, 1894, №. 12, отд. 1, стр. 48-54.)

8）НУ, 1917, № 1, стр. 15.

9）オ・スミルノーフ,「我々と彼ら（イグナーチェフ伯の退官に寄す)」, Там же, стр. 5.

10）全ロシア教育会,「イグナーチェフ伯について」, Там же, стр. 11.

（2） 全ロシア教育会内部の教員組合再建要求

前述のイグナーチェフ教育相期におけるロシアの教育家たちの活動は，学校内の種々の改良や，教員の生活の相互扶助，さらに，文化・啓蒙サークル・諸団体の結成へと進展した。そうした中で，小学校教員の役割を重んじる者たち[1]が，以上のような諸分野の活動団体と統合する組織として，「全ロシア教育会 Всероссийское Педагогическое Общество = ВПО」を結成した。1915年10月のその結成までの経緯自体は未だ明らかになっていない。この節においては，ВПО の誕生とその活動を支えたものが，イグナーチェフによる上からの「自由化」に加えて，ゼムストヴォ運動という下からの「保証」であったこと，及び ВПО の各地の教員団体の活動のイメージが，示される。

全ロシア的団体であることの「メリット」は，在ペトログラードの ВПО 理事会が誇るよ

うにして語る，次の点にあった。

——〔戦争という〕新しい国家的現実の下にあって，全ロシア教育会は，教員の声を国会の高い演壇まで伝え，しかも学校関連立法の進行に影響を及ぼすことの出来る手段を確保している。また，戦争が惹き起こした異例の状況にあって全ロシア教育会は，戦争で被害をうけた教師たちの救済という全ロシア的な教師の事業を組織している。[2]

他方，この ВПО 内における活動の主なものは，教育関係書籍の発行，寄宿舎・サナトリゥム等の設立，教員の見学旅行の組織，中央教育博物館の建設，教員大会の開催，新たな教員団体の結成の援助，等であった。[2] こうした諸活動は当然にも，教員全体に，特に，経済状態の劣悪な小学校教員層には利益となる筈であった。だが他面では，これは広い銃後活動の一環としての意義をも有するものだった。

こうした両面の効果を上から増進した要因は，時の教育省による教員への援助であった。

教育相イグナーチェフは，カソー時代の，あらゆる教育機関を兵営化してきた教育省の「回章」と「命令」を緩和していった。学区，国民学校監視部及び国民学校管理部という中間機構[3]の介在のため，大臣の意向が全くストレートに各地域にまで伝わるとは言い切れなかった。そこで，すでにブルジョアジーに担われていたゼムストヴォ運動[4]が，リベラル教育相の試みをいわば下から補うことになった。

イグナーチェフの就任の直後から請願・陳情が教育省宛にひきも切らず寄せられていた。それは，カソー教育相期につくられた「異常事態」，すなわち，国民学校視学官の自己の権限によって，ゼムストヴォ立学校の教師を任免する，学校図書室の開設の認可・却下を行う事態，いっぽう，ゼムストヴォ会議は教育事業の管理に口を出せない，会議に教員を招くことも出来ない，などに代表される事態をただちに終らせるよう要求するものだった。そのような要求をほとんど共通に訴える請願書が，キーエフ，ヴラヂーミル，コストロマー，モスクワ，ニージニ・ノーヴゴロド，オリョール，オレンブールグ，ペルミ，リャザーン，スモーレンスク，タヴリーダ，トヴェーリ，タムボーフ，ウファー，ハーリコフ，ヘルソーン等々，全国各地の県ゼムストヴォから送られていたのである。[5]

これらの結果，すなわち「カソー的回章の新しい解釈のお陰で，ゼムストヴォと〔教育省〕監視部の間の『摩擦』は弱まって行き，教師その人も又，各地で，いくらかはヨリ自由に呼吸するようになった。」[6]

さらに，教育省による直接的な物質面と資金面の援助が，教員団体に対して行われるようになった。ヴャートカ県オルローフ市の教師協会は，「全ロシア教育会を通してオルローフ協会へ補助金を出すよう教育省に対し請願を起すこと」を決議している。[7] リャザーン県の場合には，同県の教師協会が父母委員会連合と共同で「学童勤労奉仕団」を組織・指導する活動に対して，教育省の地方機関を通じて財政補助を受けているのである。[8]

それでは，全ロシア教育会の下に統合されている各地の教員は，上述の「自由化」の結果，どのような「呼吸」をなし得たのであろうか。1916年末のクリスマス週間に開かれた4つの教員団体の総会内容を例に取り上げ，彼らの活動を一瞥しよう。

ペルミ県では県北の「チェールヂニ教員互助会 Чердынское учительское общество взаимопомощи」〔以下の行文中，地名その他で略称されることがある。他の団体も同様〕が1916年12月29日に会員総会[9]を，サラートフ県では先述の「バラショーフ教師協会 Балашовское учительское общество」が1917年1月1日に60名の参加する総会[10]を，また

同じく先出のヴャートカ県「オルローフ市・オルローフ郡教員・元教員互助会 Общество взаимопомощи учащим и учившим в г. Орлове и орловском уезле」が1916年12月29～30日に臨時会員総会[11]を，そして4つ目に，モスクワ県西部の「ヴォロコラームスク教員互助会 Волоколамское Общество взаимопомощи учащих」が1916年の末に会議[12]を，それぞれ開催している。これらの内容にそくし，教師たちの活動をいくつかの分野ごとに列記することにする。

はじめにゼムストヴォに向けての，いわゆる物的・法的状態の改善の活動をみていこう。チェールヂニでは，郡ゼムストヴォに対し，教員給与のゼムストヴォ支出の部分の増額，住宅手当の年間50ルーブリを100ルーブリへの増額，応召教員の代替教員の賃金の均一化，および年1回郡庁所在市チェールヂニと勤務地の間を往復する際の馬匹無償提供をそれぞれ要求している。その結果は，これらのうち，住宅手当を50パーセント増の75ルーブリにするとの回答をゼムストヴォ会議側から得るにとどまった。

ヴォロコラームスクでは，郡ゼムストヴォ定例会議に対して，①当地の郡ゼムストヴォ参事会が差引いた1カ月10ルーブリ宛の教育省支出割増金 министерская привабка を1916年全12カ月分，教員に払い戻すこと，②1917年の教員給与を1カ月20ルーブリ宛，教育省側の割増金とは別個で，増額すること，③教員基本給の年額60ルーブリへの引上げを教育省に請願することをそれぞれ要求した。つぎにバラショーフの場合に移ると，ここでは教師たちがゼムストヴォ参事会に対し，教員の任命・配転・免職の際に教員本人の要求と意向をゼムストヴォ内の関連諸委員会においても尊重するよう，請願している。

理論・文化活動に相当する側面はどうだったのか。

オルローフでは，①学校内の勤労の原則について検討する小委員会と②児童文学の研究と小学校の校外読書用常備図書目録の作成のための小委員会を，オルローフ互助会のなかに設置することが決められている。バラショーフの総会では，農村住民がきわめて切実に求めている知的刺激である演劇，夜会，コンサート等を教員が主催する課題をめぐって，レポートと討論が活発に行われている。さらにチェールヂニ郡では，教師たちが1917年の夏休みの地域教員大会への援助をゼムストヴォに請願したのに対し，ゼムストヴォ会議はこれを拒否し，それに代わる夏季教員講習会の実施とその予算2000ルーブリの支出を決定している。

最後に，全ロシア教育会内部の有力組織との関係について伺えることを記そう。

バラショーフ教師協会は，イグナーチェフの教育省が1916年8月に第四国会に提出した普通・義務教育法案に対する自らの態度を決めるため，この法案に対するペトログラード教育会の決議文の読み上げを受けた後，バラショーフ協会内に専門小委員を設け，ここに国会内の文教事情等に「通暁せる人物」を招くことを決定している。また，同協会は，ВПО モスクワ州支部から提案された，「農村住民への法律的援助のための講習会」開催の問題について，教師1名を受講させるためモスクワに派遣することを決めている。また，オルローフでは，来る1917年5月25日にモスクワで開催予定の「国民教育問題第2回全ロシア大会」〔この第1回大会は1913年12月～1914年1月に実施の，7000人規模の大会だった〕に向けて，早くも男女各1名の同僚を派遣代表として選出している。

ツァーリ専制崩壊前夜のロシアの学校教師たちは以上のような活動を営んでいた。そこで次に，この活動の中で次第に固まってゆく，互助会 Общество ではない教員組合 Союз の

再建の要求について述べてみよう。

ロシア教員の組織化は，第一次革命の反動がうみ出した労働組合臨時条例[13]という枠の中で進められてきた。総じてゆるやかな規約をもつものであるにしても種々の名称と形態をとって，とりわけ戦時下に急速に組織化が進められた。教育雑誌『人民教師』1917年第1号巻頭論文の，次のような指摘は，そのことを反映している。

——自らの職業団体の強化と発展という教員の生き生きした活動のことを指摘しなければならない。教師を取り巻く諸条件は物質的な面でも，権利の面でも……一切が困難であるにもかかわらず，教師のなかで最も行動的かつ自覚的な分子は，自らの立場を断固，堅持し，専門的・社会的活動を力に応じて拡大し且つ深化させている。[14]

1916年中にはヴャートカ，オリョール，ヴォローネシ，モスクワ，キーエフ等の各地で教員団体が発足し，あるいは再開され，他方，バラショーフ，クバーン等数カ所の教員団体はその規約の枠を拡大して活動領域をひろげていった。[14a]

しかし現実生活においては量的問題のみがあるわけではない。この期の互助会的教員団体も，いつかは乗り越えられる組織形態だった。まず，組織を構成している教師たちの社会・政治意識の変化を見ていこう。

極東のハバーロフスクに置かれた「沿海州教員・元教員互助会 Общество взаимопомощи учащих и учивших Приморья」はひとつの好例と言えるだろう。1908年に発足したこの互助会の活動内容は，もちろん既出の諸団体と同様，先の1906年臨時条例体制下にあり，会員の相互扶助と文化・啓蒙活動に制限されていた。しかし会の内部では教員の革命的な部分とリベラルな部分とへの分化が次第に進行していたのである。この互助会は1916年の末には概ね，左翼的部分あるいは「政治的穏健性をもたない」人々の手に移り，事実上の「戦闘的労働組合 боевой профессиональный союз」へと転換し，1916年と1917年初めに，「思想穏健分子」は脱退していった。1916年12月の教員大会で示威的に退場していった市街地の教員グループの声明によれば，彼らは「国体の基礎を害するような団体に属することを望まない」のだった。[15]

こうした鋭い形の事例は『人民教師』誌上には見られない。それは，全ロシア教育会の指導的部分，とりわけ，同誌編集部をふくむモスクワの教員指導者たちがもつ現状認識が，端的に言って，「祖国防衛」という国家的大事の時にあって「眠る」教員をいかにして「目覚め」させ，全国的な固い結束をはかるかという点を中心としているためだった。全ロシア教育会モスクワ州委員のスミルノーフ О.Смирнов は，イグナーチェフの教育相退官への送辞の中で，次のように言う。

——イグナーチェフ伯の試みも何ひとつの著しい成果は得られなかった。……教員は相かわらず，ばらばらにされたままであり，社会団体との組織された友好関係，自由な友好関係を使命と感じないままに終った。[16]

スミルノーフは，2年間のリベラル教育相在任という彼らブルジョア民主主義派にとってきわめて有利な条件の下での尽力にもかかわらず，教員の組織化と指導の貫徹が依然として最大の課題であると意識しているのである。

教員大衆の「無自覚」に対するこうした焦燥感を募らせて行った結果，ВПО モスクワ州委員会は，ついに1917年1月，ВПО の形式の団結体では全く不十分であるとして，「1915年

にペトログラードに開設された全ロシア教育会は，まさに……全ロシア的教員統一の妥協的形態」[17] であるとの断定を投げつけ，ВПО を全ロシア的教員組合に改組することを提起した。

——教員団体の大半は沈滞している。諸団体の間の結びつきが欠けている。或る団体が採り容れた有益な手だてが，そして真面目な模倣が他のところに知られないままになっている。或る団体の活動家たちの熱中が他のところのエネルギーを刺激せず，どこからも支持されず，じきに鎮まってしまう。それゆえ，今日もっとも急を要する焦眉の問題は，教員団体を統一する問題であり，この任務を，全ロシア教員組合が結成される迄のあいだ引き受けるのが全ロシア教育会である。[18]

こうした決定的な提起の前提にあったものは，教員組合という「形態は，現在，小学教員は有していないが，しかし彼らはこの形態の全ロシア的団体のことを考えざるを得ないし，さらにその実現にむかって努力せざるを得ない」と自ら述べる確信である。[19] その「努力」には，あの1913年末から1914年初めにかけての，7000人の「国民教育大会」における，「小学校教員が全ロシア的労働組合へと統一され」る必要をうたった決議の採択[20]もふくまれるであろう。こうした要求の存続したために，唯一の全国的教員団体であっても全ロシア教育会は「妥協的形態」だと罵倒されたのである。

しかし，これを受けて立つべき ВПО 理事会は，第一次ロシア革命期の ВУС を清算的に考えていた。

——革命の年には……教員組合をつくろうとする試みが行われた。がしかし，それは実現不可能に終った。……その際，革命の時代の政治的＝職業的組合のこの弱点を，もっぱら一般的な警察的条件のみから説明してはいけない。そこには腐敗させるような内部の軋轢も又，常に存在したのである。[21]

ペトログラードの指導部は，このような無力感を吐露するにとどまらず，「全ロシア教育会の構成員の中には……誤った傾向が存在する。……いわゆる組合 Союз への志向である。そうは言っても，組合であること союзность とは，中央機関に対して活動報告書を提出すること，それだけである」と反発し，[21]「組合」理論の歪曲に逃げ道を求めた。

モスクワの論客スミルノーフはこれを批判して，ペトログラードの理事会のように中央機関と地方機関の正しい関係を見ようとせずに「別の見地に立ったなら，現在〔1915～1917年〕，ゼムストヴォや都市，生活協同組合を統一して強力な組織をつくっている一切の連合や組合の運動 *союзное* движение を否定しなければならなかっただろう。」と述べた。[22] これは結局，最も間近に見ている活発な全ロシア的運動に範を取ったものであった。

すなわち，全ロシア・ゼムストヴォ連合は，1914年7月末，モスクワで開かれた全ロシア・ゼムストヴォ大会で「傷病兵救護全ロシア・ゼムストヴォ連合」として結成され，他方，「全ロシア都市連合」の場合は，同年8月初め，同じくモスクワで開かれた第一回全ロシア大会で結成されたもので，[23] 両連合ともに「戦争初期は当初の任務に限って活動していたが，……1915年春以来の戦局の悪化，国内経済の悪化と共に，政治的企図のために活動し始めた」のであった。くわえて，「特にモスクワには，これらの組織の指導・執行の中心部が集まっていたため，このような気分が強くなっていた」のである。[24]

ВПО モスクワ州委員会の ВУС 再建の主張の政治的基礎は，如上の経緯の中に求められるのである。

この間，イグナーチェフは1916年12月27日で教育相を辞していたが，彼の在任中につ

くられてきた，学校と教員の「自由」の空気は1917年初頭もずっと漂い続けた。[25]

こうして1917年二月革命を迎えた時には，モスクワ派の1905年 ВУС を復活しようという呼掛に対して，37県にわたる200を越す各地域教員団体が積極的反応を寄せてきたのだった。[26]

I-(2) 註

1) Н. А. Константинов, Е. Н. Медынский, М. Ф. Шабаева. История педагогики. М., 1955, стр. 344.
2) НУ, 1917, №. 5, стр. 10. 引用文と訳文の中の〔 〕の部分は筆者による補足。本稿では以後，同様。
3) 国民学校監視部 Инспекция народных училищ は 1869 年に設置され，ここに所属する国民学校視学官 Инспектор を通して，初等学校に教育省の諸規則を守らせるために監視した。国民学校管理部 Дирекция нароных училищ は 1874 年に設置され，初等・市立初等・高等小の各学校を管轄下に置き，主に政治・思想上の監視を行った。各県には，学区（数県を含む）総監 Попечитель учебного округа に従う通例1名の県教育長 директор が居り，さらに各郡には後者に従う1～3名の国民学校視学官が居た。
4) 中村義知『ロシア帝国議会史』，1966，風間書房，p. 212.
5) Odinetz, op. cit., pp. 71-72.
6) スミルノーフ，「我々と彼ら」，НУ, 1917, №. 1, стр. 5.
7) Там же, №. 2, стр. 15-16.
8) Odinetz, op. cit., pp. 115-6.
9) НУ, 1917, №. 4, стр. 12. チェールヂニの事例は，すべてこの記事に基ずく。以下4団体の根拠も同様。
10) Там же, №. 1, стр. 15.
11) Там же, №. 2, стр. 15-16.
12) Там же, №. 1, стр. 16.
13) 参照，荒又重雄『ロシア労働政策史』，1971，恒星社厚生閣，pp. 240-2.
14),14a) 「昨年度の文化建設」Там же, стр. 4.
15) А. Н. Геласимова. Народное просвещение и учительство дальневосточного края в первый период советской власти. СП, 1949, №. 1, стр. 57-58. 当事者の回想記事。
16) НУ, 1917, №. 1, стр. 5.
17) Там же, №. 5, стр. 4.
18) 「教員の統一の二つの路線。第一。モスクワ路線」Там же, стр. 9.
19) Там же, стр. 4.
20) 拙稿「ツァーリズム最末期の教育の諸問題」，前掲『世界教育史大系 15 ロシア・ソビエト教育史Ⅰ』，pp. 309-310.
21) 「第二。ペトログラード路線」Там же, стр. 11.
22) オ・スミルノーフ，「全ロシア〔教員〕組合かそれとも全ロシア〔教育〕会か」Там же, №. 6, стр. 4.
23) Советская Историческая Энциклопедия, т. 5, столб. 675.
24) 中村義知，前掲書，p. 297.
25) Константинов, Указ, соч., стр. 188; Odinetz, op. cit., p. 120.
26) НУ, 1917, №. 9, стр. 6.

第Ⅱ章　二月革命後の教員の活動の開始

1)　両首都教員の全ロシア組合再建準備

ペトログラード市の教員を結集させるペトログラード教育会[1] Петроградское Педагогическое Общество взаимопомощи は首都の二月革命直後の3月7日，臨時集会を開き，この団体をペトログラード教員組合 Петроградский Учительский союз へと改組することを決定した。[2] 翌々9日には，873名の参加で同組合の初の総会がもたれ，臨時政府への全面・無条件支持を宣言した。[3]

ボリシェヴィキーの教員もこの総会に出席していたが，彼らは新政府が帝国主義ブルジョ

アジーの政策を遂行する政府であることをばくろした。リュドミーラ・メンジンスカヤは[4]労働者・兵士代表ソヴェトへの支持を訴え，スローガン「帝国主義戦争を内乱へ」を提起した。[5]

しかしこの時点でボリシェヴィキーの提起がペトログラードの教師の多くをとらえることはあり得なかった。

ペトログラード教員組合がこの日採択した決議は次のようなものである。

「革新なったロシアとその臨時政府を心から歓迎しつつ，ペトログラードの教員は，次のような呼びかけを政府声明に加えることの重要性を特に強調するのが自己の義務と考える。つまり，最後の勝利まで外部の敵との戦いを継続することに全力を傾けよう。この戦いが，我々にとっては，自己の最初の勝利を得た内戦を継続することに他ならないのだ，と。」[6]

いまこの決議を吟味するなら，「政府声明」とは，過ぐる3月6日に出された，戦争の継続を宣言する臨時政府のアピールを指す。又，「最初の勝利を得た内戦」とはツァーリ体制を倒した二月革命のことを，「外部の敵との戦い」とはドイツ・オーストリーとの戦争のことを，それぞれ指していることが判る。この決議から我々は，革命のこの段階ではペトログラードの教員大衆の大部分は「祖国防衛主義」の思想に捕われていた，と見做さざるを得ない。

一方この頃，同じペトログラードでは全ロシア教育会理事会が，来るべき復活祭（4月9日）にペトログラードで全ロシア教員組合結成全ロシア教員大会を開くことに決め，その準備を始めていた。[7]

3月20日のペトログラード教員組合総会は，全ロシア教員大会代議員と同教組評議会の選挙を行った。選ばれた代議員も評議員も，共に明確な臨時政府支持者たちであった。[8]

3月29日の総会は教育相マヌイロフを迎えた。彼が教育相として教師たちの前に姿を見せるのは初めてのことなら，臨時政府の教育改革の基本方針に相当するものを開陳するのも初めてであった。[9]マヌイロフは約1500名の参列者を前にして，新しい学校は，民主主義の原理，地方分権の原理，自由の原理に基づいたものでなければならぬ旨の演説を行った。[10]こうした所信の表明も，それまでに実績の裏付けがあったなら聴衆を納得させたであろう。ところが臨時政府教育省は，ツァーリ時代からの国民教育における諸々の積弊を除去するというブルジョア政府として最低限の課題を遂行する能力も意思もなかった。[11]このことは，学校内外の現場でも感じ取られる程であったから，[12]上記の所信表明も空虚な言葉に響かざるを得ず，そこでこの集会の臨時政府支持者のあいだからも次のような激しい発言を招来した。

「学校から旧い権力の肖像画は持出されたが，しかし教育行政熱心の旧い王朝は学校にそのまま残っている。学校反革命攻撃に気をつけろ。」[13]

しかし，この後1週間のうちに，教育省は実際に根本的改革に着手しなかったのであるから，全ロシア教員大会においてもマヌイロフと参加者の間にこれと同じような場面が演じられることになったのである。

モスクワの革命第1日目は2月28日だった。この日からモスクワ労働者の一斉ストライキとデモンストレーションが開始され，至るところで集会が行われ，工場，印刷所，商店，などが閉鎖され電車も止まりがちになった。

27日のうちにペトログラードでの革命が伝えられ，ボリシェヴィキーはじめ革命諸党派がペトログラード支援の蜂起を呼びかけていた。そして28日の総決起となった。

翌3月1日には労働者・兵士たちの革命部隊が市内要所を占領，モスクワのツァーリ権力

機関を手中にし，二月革命は勝利した。

この闘いの中から人民の機関「モスクワ労働者代表ソヴェト」が生まれた。しかしモスクワ・ソヴェトは3月2日，モスクワのブルジョアジーが結成した機関，「モスクワ社会団体委員会 Комитет московских общественных организаций」を，新しい地方権力機関として承認してしまった。こうして，メンシェヴィキーとエスエルが多数派を占めるソヴェトが協調してブルジョア委員会に代表を送るという形で，モスクワの二重権力が成立した。[14]

モスクワ市民の，なかんずく教員大衆の二月革命後の意識は如何なるものであったか。われわれはソヴェト教育学者ブロンスキー（1884-1941）の回想を紹介できる。かれはこの頃モスクワに在り，「臨時政府に急いで圧力を加えないこと……。われわれは権限をもった憲法制定議会をまだまだ待っていられる。」[15] と，教育雑誌に執筆していたのである。そして何年か後には次のように記している。

……戦時であることと，将来の憲法制定議会にしか権限はないのだということを理由として，「待つ」ことが叫ばれていた。この呼びかけはどこでも聞けた。始めの頃，こうした呼びかけがどれ程有効だったのかと言えば，これを期待する結果として〔戦争による〕新たな犠牲へのアピール以外なに一つ革命からは得られなかった人々さえ同じように，「平和になるまで待たなければならない」，「憲法制定議会まで待たなければならない」と繰り返しさえすれば自分は非常に賢いと考えていた位であった。[16]

このように彼らの間では当時，戦争遂行の甘受，臨時政府への期待，これらが圧倒的に優勢な気分であった。

では他方，教員層のナロードニキ的で意識的な部分は，二月革命をどう受けとめ，自己の課題を意識したのか。そうした活動家たちの組織，全ロシア教育会モスクワ州委員会は革命後ただちに「全ロシア教員組合モスクワ州ビューロー」と自己の名を改めると共に，その事実上の機関誌『人民教師』誌に次のようなスローガンを載せた。

諸君！全ロシア教員組合に結集せよ！農民を組織せよ！

自由の確保をめざす単一の強力な人民運動を創出しよう！

民主政治の隠れた敵をあばき出せ！挑発者に気をつけろ！

農民と労働者に力の緊張を訴えよ！軍隊へパンと弾丸（たま）を送るよう訴えよ！[17]

これらのスローガンをちりばめた同誌8号では，“モスクワ州ビューローの教員へのアピール”に全一頁が割かれており，そこで，全ロシア教育会活動の末期にモスクワ派が主張した教員組合の組職化の手順が繰り返されている。[18] しかしここでは第9号に掲載されたより簡潔な“アピール”を引いておこう。

全ロシア教員組合。

モスクワ州組織より。

諸君！

旧秩序は倒れた。組織されたプロレタリアートという強力な社会勢力の圧力の下に，並びに人民軍の強力な支持の下に，最高権力は，国を専横と蔑辱の中に押込め苦しめてきた専制ツァーリとその一味徒党のけがわらしい手から，もぎとられた。

＜略＞

1905年に進歩的教員によって創立され，その後は旧体制の残忍な召使どもによって解散させられた全ロシア教員組合は，法廷と当局から迫害されてはいるが，消滅はしなかった。そして我々この組合のモスクワ組合員は，その他の教員団体のメムバーと共に，解放運動の勝利の喜びをわかち合うものである。そして自由なロシアの自由な市民である諸君に挨拶を送る。

祖国が際会している偉大な時代は，大きく且つ神聖な義務を同時代人に提起している。革命によって勝ちとられた自由を確保する単一の方向に運動を導くことと，国に国際的独立を保証することである。

以前のスパイ，挑発者，その他民主政治の隠れた敵どもは，新しい体制の支持者であると頻りに詐称しているが，運動を中傷しようとするその醜い試みは，既に商店と宅地の破壊を，そして内乱を呼びかけている。祖国の敵どものこうした恥ずべき活動には自由の闘士たちの，たとえ彼がどこの人民政党に属していようとも，その行動の統一を対置しなければならない。

小学教員は急いで自己の全勢力を動員しなければならない。強固な全ロシア組合に結集し，切れ目ない態勢をとり，農村では農民への支援に，市街では労働者階級への支援に，即刻，積極的に取組まねばならない。

急げ，諸君！時は待ってくれない。地域グループを組織して州支部に加入せよ。来る4月4～5日，モスクワに集まるつぎの州代議員大会への代議員を選出せよ。

照会は大会組織委員会——モスクワ，トヴェーリ哨所，ツァールスキー，4，『人民教師』誌編集部——まで。

モスクワ州支部議長　ヴァーフテロフ
大会組織事務局々長　スミルノーフ
事務局書記　ソコローフ[19]

一読して明らかなように，これは，農民とプロレタリアートのたたかいの支持，戦争続行支持，「愛国主義」の表明，反革命の危険の喚起，新政権支持への行動の統一，革命による獲得物の確保，更に，小学教員と農民との組織化への行動提起である。すなわち，これは二月革命後のエスエルの方針の具体化であった。その実践のために，同じ第9号において，次のような10種類のパンフレットの発行予告が行われた。

1．憲法制定議会・ウスチーノフ
2．民主主義共和国・ムリノフ
3．普通選挙法・ズヴャーギンツェフ
4．ロシアに専制は如何にして出来そして倒れたか・ボチカリョーフ
5．農民同盟・ベルナシェフスキー
6．信教の自由・ペトリーシチェフ
7．女性に平等がなぜ必要か・カイダーノワ
8．地方自治
9．ロシアの諸民族の民族的復興
10．市民権の保証

8～10は著者未定である。いかに急いだものかが知れよう。しかし第10号誌上の広告では近

日発売の文字は消えている。変化のあったものは,

4. 直接・秘密・憲法制定議会選挙・ズヴャーギンツェフ

8. 郷ゼムストヴォ・ドゥルヂェネフスキー

9. 民族自治と国家的統一・ラヂージェンスキー

10 市民権の保証・ヴィシェスラーフツェフ

である。[20] 発行する品数を限っているとすれば，4，8，9の内容の変更は，情勢に照してみるなら各々が彼らの運動の必要により適しいものになったと考えられる。特に8を「郷ゼムストヴォ」としたのは，この3月には従来の県・郡ゼムストヴォに加えて郷のゼムストヴォが新たに設置されつつあったのであるから,[21] 教員の地方自治参加や農民の組織化に重点を置く彼らとしては必須の措置だった。これらは直ちに出版・普及され，それなりの秀れた活動の武器となって行く。

さて，モスクワ州ビューローの，各地の教員組合への援助と並ぶ3月中の重要な課題は，モスクワ州代議員大会を「成功」させることであった。

この大会の任務の第一は勿論，全ロシア教員組合モスクワ州支部の確立をかちとることであり，第二には，革命後1カ月間の各地の闘いの総括，そして第三には闘争方針の決定である。[22] だがこの大会の意義は決定的であった。それは，この州大会を成功させることのみがВУС の再建を，単なる全ロシア組合の再建にしてしまうのではない「1905年の全ロシア組合の全面復権」となしうる，との認識に依るものであった。[23] モスクワ・ビューローはВПО の活動以来，強力な教員組合をつくる上で，ペトログラード派の軟弱な姿勢を障害として強烈に意識しているのであった。

それ故彼らは，復活祭のペトログラード大会に対する論評の中で，こう言い切る——「全ロシア組合を創立するべき大会への全ロシア教育会による準備を改善するために，全ロシア教員組合モスクワ州ビューローは，4月4～5日にモスクワで開かれるモスクワ州大会に代議員を派遣するよう……呼びかける。」[23] と。

こうして彼らはモスクワ州内に地域を限定しないで広く大会準備活動を展開した。

II-(1) 註

1) ペトログラート教育会及び同教組に関しては，その機関誌に相当する雑誌『ペトログラートの教師 Петроградский Учитель』など第一次史料を見ていないため，カラリーョフ等に依拠した。
2) Ф. Ф. Королев. Февральская революция и народное образование. СП, 1952, №. 2, стр.58.
3) Там же.
4) 彼女（Людми́ла Рудолфовна Менжинская, 1876–1933）は，1890年代にはクループスカヤと同じくスモーレンスクの日曜夜間学校で教鞭を取っていたボリシェヴィキーの教育活動家。彼女の姉ヴェーラ（Вера, 1872–1944）は学校教師であり，「二月革命後，ВУС 内マルクス主義者フラクションを組織した一人」（S. Fitzpatrick, The Commissariat of Enlightenment, London, 1970, p. 312 n.）とされる。メンジンスカヤ姉妹は大十月革命後の11月30日，ペトログラート教組から除名された。（Ф. Ф. Королев. Указ. Очерки, стр. 128.）それに抗議して59名の組合員が脱退した。（Fitzpatrick, ibid., p. 35）同教組の総会は11月19日，“ソヴェト政権の決定を実行しないよう”決議を出していた。（Ibid., p. 34）
5) Ф. Ф. Королев. Указ. статья, там же.
6) Научный архив АПН, ф. 19, ед. хр. 14, л. 52 цит. по ст.: там же, стр. 58–59,
7) НУ, 1917, №. 9, стр. 6. 彼らは「ВУС の復活」の日をキリスト復活の日になぞらえたのか？
8) Ф. Ф. Королев, там же, стр. 59.
9) Там же; Russian schools and universities, p. 121.
10) Там же.
11) 臨時政府の教育政策については，参照。拙稿「臨時政府・教育省の政策」。前掲『世界教育史大系16 ロシ

ア・ソビエト教育史Ⅱ』所収。

12) См. «Народное образование», 1957, №. 1, стр. 11 (А. Беляева. Больба большевиков за коренное преобразование дела народного просвещения в России.); П. П. Блонский. Избранные Педагогические Произведения. М., 1961, стр. 24, и др.

13) Научный архив АПН, ф. 19, ед. хр. 14, л. 58 цит. по кн.: Ф. Ф. Королев. Указ. соч., стр. 62. なお,「学校反革命攻撃」というのは原文で школьная Вандéя の個所。Вандéя はフランスの Vendée のことで,フランス大革命後,王朝派がこのヴァンデのあるポアトー地方等を中心に反革命武装蜂起したため,この蜂起に名を冠せられた (См. СИЭ, т. 2)。

14) И. И. Минц. История Великого Октября, т. 1, М., 1967, стр. 646-658, 670.

15) 執筆は3月。雑誌掲載は1917年の末であった。«Как организоваться русскому учительству ?» в журн. «Вестник воспитания», 1917, №. 4-5, цит. по кн.: П. П. Блонский. Указ. соч., стр. 660 примеч.

16) [……] 内は引用者のもの。執筆年などは不明。Блонский. Указ. соч., там же. これは,この時期の人民大衆の,そして恐らくはブロンスキー自身の,「自由」と戦争の政府にたいする「軽信的=無自覚的態度」(レーニン) への反省を含んでいると考えられる。

17) НУ, 1917, №. 8, стр. 5, 10, 11, 15.

18) 各地の組合の結成・再建に供すべく手際よく第一次 ВУС の規約 (1906年大会採択) も掲載され,さらに,1890年代のインテリゲンツィアの啓蒙運動に始り第一次の ВУС 形成に至る“歩み”が載っている。そして次号第9号には第一次 ВУС 最終大会 (1907) 採択の規約が掲載された。

19) НУ, 1917, №. 9, стр. 5. 原文で隔字体になっている強調個所に黒点を付す。

20) НУ, 1917, №. 9, стр. 16; №. 10, стр. 16. 各パンフは32～48ページ。

21) 3月19日付の郷統治に関する臨時政府決定に,「……郷ゼムストヴォの建設という火急の作業の完了せぬうちは,貴殿が郡コミサールの……」とある。本稿註Ⅲ-(1), 13), Великая, стр. 440.

22) Программа Съезда. НУ, 1917, №. 9, стр. 5.

23) Там же, стр. 6. 下線部は引用者。

2) 各地の教員組合結成の動向

ニージニ・ノーヴゴロド市(現ゴーリキー市)では3月の中旬,[1] ニジェゴロト県教員互助会 Общество взаимопомощи народных учителей нижегородской губернии の臨時集会が開かれ,そこで,全ロシア教員組合のニジェゴロド県支部,ニージニ・ノーヴゴロト県教員組合 Учительский Союз нижегородской губернии を結成することが決定された。

モスクワに近く,ヴラヂーミル,コストロマー両県と共に中央工業県であるニジェゴロト県は,労働者の勢力の非常に強いところで,一般に,社会諸運動の活発な地域だった。

3月1日,ニージニ・ノーヴゴロト,ソールモヴォ,カナーヴィノの労働者たちは首都で革命の勝利したことを知った。[3] ストライキ宣言が出され,ストは3月3日まで続き,すべての工場がストップした。ソールモヴォ工場の労働者たちが革命歌をうたい,赤旗を掲げてニジェゴロトの町なかをねり歩くと,他の工場の労働者たちもそれに加わっていく。[4] こうした情景が教師たちをいたく刺激しない筈はなかった。[5]

互助会の臨時集会にはニジェゴロト市内の教師たち250名が出席したが,ここで彼らは,意気軒昂,若々しく楽しい気分にひたる。[6] 教師たちは,組合綱領を含む7つの決定と,決議「県教員組合の当面の任務」を満場一致で採択した。それぞれ次のとおりである。[7]

——1. 政治的自覚 самоопределение のために,並びに既に遂行されつつある人民の政治的社会的創造活動への参加のために,本集会はニージニ・ノーヴゴロト県小学校教員互助会を,教員組合の県組織に改組することが必要であると見なす。

2. 全ロシア組合の結成と県代議員大会までは,一時現行の県教員互助会の県(中央)組織が,地域支部組織もそうするのが望ましいが,互助会の機能も組合組織の機能も果すもの

とする。

3．しかしその他に，郡組織に統一される純粋に組合的な地区組織も又，設置される。又同じく，県組合の一般政治綱領と規約とに従うという条件の下に，県組合の民族部，政党部，専門職部という特別部が結成され得る。

4．すべての支部，地区グループ，郡組織は県組合に統一される。

5．ニージニ・ノーヴゴロト県組合はモスクワ州組合に加入する。

6．組合の県組織の組合員は，全ロシア組合の政治綱領，但しその創立大会招集以前は県組合の綱領を承認し，且つ全ロシア創立大会で採択されるであろう全ロシア組合の規約を承認する，あらゆる型の学校の男女現職・退職教員，並びに講習所と成人学級の講師と教師，民衆図書館の司書，人民の家職員などの校外教育の働き手，同じく，国民教育の全活動家，である。

7．**綱領**：A）政治綱領——普通・男女無差別・平等・秘密・直接選挙による憲法制定議会。民主主義共和国。従って又，国家からの教会の分離（宗教は各人の私事である）を伴う信仰の自由。言論・集会・結社・合同等の自由。一院制立法機関。身分制の廃止。州自治の確立。民族自決。（非身分制の）全人民的村自治と郷自治。

Б）職業綱領——普通・義務・無償教育。義務制初等学校の課程の延長。国立の普通義務教育学校の単線化（従って，普通教育の学校としての教会付属小学校の廃止）。統一学校（普通教育の全段階，初等・中等・高等各教育における）。宗教の教授は私事。国民教育の事業の普通・平等・秘密・直接選挙に基づいてつくられた地方自治機関への，及び，民族的機関への引渡し。従って，小学校の政府視学官を世論選出の国民教育の専門家と取り換えること。学校協議会を世論選出の県・郡・地区（郷）・村の各合議機関と取り換えること。すべての成人と未成人への無料初等教育の保証。成年住民のその他の全ての教育要求を充たすこと。就学前教育と校外教育の施設を全住民に保証すること。

——**県教員組合の当面の任務**。(1) 組合の地区グループと郡グループを至急組織するための県組合の援助。このために，出張指導要員を県組合の下で養成する。

(2) 教師たちにその政治的自覚を促す。又同じく，住民の間での教師の情宣・組織活動を促す。このために，県内の教員集会向けの講師要員を設ける。生まれつつあるすべての地区グループに必要な文献を供給するための文献委員会を教員組合の県評議会の下に設ける。

(3) 組合規約の検討と国民教育の研究，及び国民教育関連法案の資料の蒐集のための委員会を教員組合の県評議会の下に設ける。

(4) つぎのことが県組合から郡執行委員会へ直ちに提言される——

а）国民教育を警察制度にしている国民学校視学官を，各郡の教員の仮代表と，あるいは教員大会で推薦された初等国民教育の専門家と，直ちに取り換えること。

б）小学校における試験を廃止すること。

в）郡学校会議及び郡ゼムストヴォ会議へ小学校教員郡大会から各々4名の代表を選出すること。又，県学校会議及び国民教育問題での県ゼムストヴォ会議には各郡から各々1名の代表と県教員組合から3名の代表を選出すること。

г）県学校会議から内務省代表，教会代表，及び教育省代表（省内に古いレジームの役人が居る間は）を辞めさせること。

д）教員組合地区組織，国民教育普及協会，農民同盟，労働者代表郡ソヴェトの各代表から成る，又協同組合もあるところではその代表も含めた，国民教育委員会[8]をゼムストヴォ参事会[9]の下に設けること。

(5) 選挙——

а）ニージニ・ノーヴゴロト執行委員会への代表1名。

б）労働者代表ソヴェト及び農民同盟への代表，各3名。

в）ペトログラートの全ロシア〔教員〕大会への代議員2名，及びモスクワの州大会への代議員2名。

以上の諸決定は，『人民教師』誌に直ちに掲載されただけあって，全体を通してモスクワ派の影響を感じさせるものである。それなりに整った組織論を示す，決定2～6は先のBПО内部論争の時のモスクワ州委の主張に沿っており，第一次BУC の経験を踏まえている。「任務」の(5)のв）は，モスクワ・ビューローのBУC 州大会の方針を受けたものと思われる。

「政治綱領」と称する政治上の要求では，そこに“非身分制の村自治と郷自治”という要求が入っていることに注目したい。これは，教師たちの，村・郷の段階で社会的地位は最下層に置かれ，直接の上司や村の長老，坊主，巡査などは言うに及ばず，地主や小商人などからさえも監視され，迫害され，蔑まれていた封建的過去からの解放の，直接の保証の要求でもあった。

「職業綱領」に盛られた要求は全体として，理論上は民主主義政治の下でも実現できるものばかりである。ここでは，母語での教授などの項目が落ち，第一次BУC とその後の運動において定式化された教育民主化の諸要求を網羅していない粗雑さは見られる。しかし「義務制初等学校の課程の延長」，つまり小学校の教育期間の4～6年（恐らく）への延長，ならびに「就学前教育……の保証」の二項が新たに入っていることは，この十年余の，教育諸条件の変化，或は戦争の影響，[10]そして教育運動のそれなりの継続の反映といえる。

では，以上の要求を実現する力を，彼らはどこに認めたのか。そしてそれに規定されるニジェゴロト県教組の郡執委への提案が，BУC 内で占める意義について考察してみよう。

任務の(4)，(5)の文脈から，ならびに全国情勢から，革命後のニジェゴロト県内の郡レヴェルの権力機関（或は厳密にはその萌芽）が，基本的には，ブルジョアジー及びブルジョア化した地主を代表するものが郡執行委員会，プロレタリアートのそれは労働者代表郡ソヴェト，臨時政府の機構はゼムストヴォ参事会であることがそれぞれ明らかである。そして教員組合は，ブルジョア民主団体の一つであることを自認し，執行委員会を主要な地方権力機関と見做しているのである。そこで，「綱領」の実現のために県教組の段階では，専門の委員会を設けて自ら理論と政策を準備しつつ〔任務の(3)〕，県執行委員会への代表を通してそれを反映させる〔同，(5)のа〕。他方，郡の段階では，県内共通の提案は予め示しておき〔同，(4)のа～г)〕，郡内で解決すべきはゼムストヴォ参事会下の，教員組合をはじめ民主諸団体の参加する国民教育委員会に検討させ〔同，(4)のд)〕，郡執行委員会に実施させる。これがBУC の一支部の描く改革実現のシェーマである。それ故，4月初めに成立する予定のBУC 中央も又，全国的改革実現のために，基本的には違わないシェーマを打ち出すであろう。

このように政治的要求と組織方針とを前面に押し出し，かつ経済要求を著しく軽視ないし無視した地点から，ニージニ・ノーヴゴロト県教員組合は闘争を開始したのだった。

ヴォローネシ県

二月革命の波はドン中流流域の農業地帯，ヴォローネシ県にもおし寄せてゆく。

ヴォローネシ市では3月4日，労働者と兵士が市の警察と憲兵隊を武装解除し，[11] その日のうちに政治犯を釈放した。[12] 県西のオストロゴーシスク市にても同日，革命的兵士たちは政治犯を解放していった。[13] このようにしてツァーリ権力が打倒され，政治的自由のかち取られたところからも教師たちの叫びが伝えられた。

偉大な事業が遂行された。愛すべき祖国の上にたつ旧い専制国家体制の，幾年月に亘る重苦しい束縛は潰えさった。ルーシは解放された。人民教師も又，解放された。新しい，自由で幸せな生活の建設が行われている。人民教師はこの事件の傍を無関心に通り過ぎてはいけない。人民教師は，新しい生活の建設に最も積極的に行動的に参加しなければならない。そのために，組織された，固く統一された力が必要なのである。力を統一しよう！われわれ，オストロゴーシスク ならびに その近郊の市立，ゼムストヴォ立，教会立各学校の教師たちは，「小学校教員組合」を結成した。当面する任務は，1）オストロゴーシスク郡下の全小学校教員の統一，2）新政府の強化，3）賜った政治的自由の擁護，4）地域の社会委員会への参加，5）民主主義の念願に基づく将来の新国家体制のあり方について住民の間での宣伝，である。

人民教師は住民に強く結びつけられており，また，住民はその子弟の教育者，教師である人民教師には全幅の信頼を寄せている。教員は村で殆んど唯一の文化的な力であり，その利益と社会的地位は村の利益や状態と密着しているのである。そこでわれわれは同僚の諸君にどうかお願いする。地域にゼムストヴォ立，教会立，省立，等の各学校の教師たちで郷教員組合 Волостные Учительские Союзы を組織することを。刷新なった国家体制のような方向に郷委員会の活動を導くために郷委員会に直接に参加することによって，現在の祖国の政治生活に積極的に参加されんことを。

どうか同僚諸君，諸君の代表をわれわれの下に派遣し，われわれの組合に入って頂きたい。というのは，われわれの組合の主たる任務の一つが郡全体の教師たちを郡組合 Уездный Союз に統一することであり，それが今度は県教員組合に入り，この組合が又，全ロシア教員組合に加入するのだから。

事業の成功を祈る。同僚たち。実り多きよう！

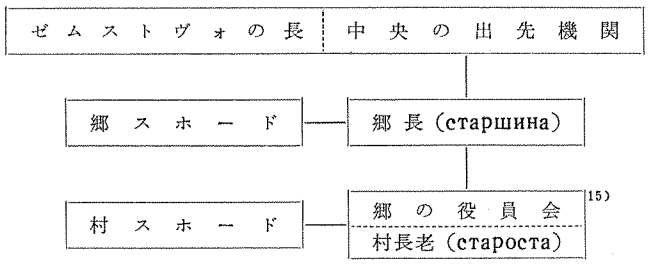
1917年3月13日

オストロゴーシスク市・近郊小学校教員組合 Союз учителей начальных школ г. Острогожска и его пригородов.[14]

かれらの「当面する任務」に記すところから，その政治的自覚の如何なるものかが伺えよう。「ツァーリの打倒」，「新政府支持」，「賜った дарованный 政治的自由の擁護」，――ほとんどの農村教師も又，これと違わなかったであろう。だがそうだとしても止むを得なかった。教員大衆は初めて政治現実に参加するか，或は第一次革命後いち段と強められた束縛の十年を暮してきた者たちであった。

このような彼らを政治生活に引き入れるのは郷と村の政治であったが，それは今や，二月

二月以前の郷行政組織



革命を経て，身分制自治から階級政治への転換のさなかにあった。

農村の二月革命は，ゼムスキー・ナチャーリニク（上図，中央の出先機関の長）や，郷長，郷役員，村長老を罷免する闘いを伴っていったが，それらに代る新しい機関が，郷委員・村委員会であった。

郷委員会は，全農民的な機関であるに止らず，全階層的な機関でもあり，農民と共に商人や地方役人も，小学教員など村のインテリゲンツィアも委員の被選挙権を有していた。[16]

しかるに他方，内務省の情報網で地方の動きをキャッチした臨時政府も，こうした動きを放置するなら郷委員会が新しい郷統治の機能を担い，あわせて人民の反政府的意志の中心になっていくと判断，郷委員会結成の主導権を自己の出先，郡コミサールの下に掌握する策をとるに至ったのである。これが，3月19日の決定で，そこでは，政府主導でつくる新しい「委員会の仕事には，地方の地主や農村内の全インテリ層を巻込むことが勧められる……。」と指示されているのであった。[17]

農村の教員は，こうした郷や村をめぐる激しい闘争の中で，先のアピールに言う「村で殆んど唯一の文化的な力」であることを自覚する段階[18]を越え，モスクワ・ビューローなどとの交流で次第に政治的・組織的力量を増し，れっきとしたВУС の一員となっていった。

沿海州

ロシア中央から避遠であること，プロレタリアートの少いこと，ボリシェヴィキーがメンシェヴィキーと共通の組織になっていること，こうしたこともシベリアと極東の革命の進行にはさして影響はなかった。[19] 3月1日には首都での革命勝利の知らせが届いた沿海州最大の都市，ウラヂヴォストークでまず蜂起がはじまり，3日に革命が勝利。そしてこの日人民会館で開かれた労働者と勤務員の集会が，ウラヂヴォストークの労働者代表ソヴェト結成のイニシャチヴを握った。[20] ハバーロフスクではやや遅れた。それでも5日にはここでもツァーリ権力の出先が倒され，逮捕されている。[21]

沿海州教員互助会は翌6日，革命後最初の集会を開き，沿海州教員労働組合 Профессиональный союз учителей Приморья と名称を変えた。[22]「時代の精神にふさわしかったため」互助会理事会から改選されずに発展的に継承したこの組合の幹事会が，辺境区男女教員大会を招集するイニシャチヴを取った。

辺境区男女教員大会は4月4～8日，ハバーロフスクで行われた。沿海，沿アムール，アムールの辺境三州から教員が参集し，その数は1104名にのぼった。元来ここには教員大会を開けるような建物がなかったために，サーカス小屋を使用することになったという。かれらは「犬に引かれ，馬に乗り，自ら歩き，そしてスキーを履きして……春のぬかるみにも，鉄道も

なく遠い奥地からの道のりにも打ち勝って駅のある町まで出てきた。」と，この闘いの中で自らがイマン＝ハバーロフスク小学校教員組合の組織者の1人であった[23]ゲラシーモワは回想している。[24]

この大会において，その中心的議題である教員労働組合の組織化と学校改革問題とをめぐって，二つの対立する傾向が歴然となることは，さきの，16年末から17年初めにかけての諸事件からして，当然の推移であった。すなわち，農村と市街の小学校教師を先頭にした革命的傾向と，市街の中学校と高等教育機関の教師を先頭にした，革命をブルジョア的な枠の中に押し止めようとする傾向とである。[25]この二つの傾向は教員の敵対的な二つの陣営で表され，社会主義革命への移行期を通じてそれらの間の闘争が続けられ，鋭くなっていった。そしてそれは，この大会の直後，辺境区の至るところで教員の労働組合や専門職団体[26]がつくられる[27]ことで新たな段階に入ったのだった。

4月11日，ハバーロフスクで，沿海州と沿アムール州の教員の組合結成会議が開かれたが，結局それは分裂して終った。市街地の中学校と上級学校の教員はハバーロフスク教師協会 Хабаровское общество учителей を結成，一方，ボリシェヴィキーの指導下にあった革命前の「沿海州教員・元教員共済組合」の中核的部分は，イマン＝ハバーロフスク小学校教員組合 Имано-Хабаровский союз народных учителей を結成した。[28]

8カ月後の極東における社会主義革命以降の教員の陣営の対抗関係は，[29]こうして4月半ばにして明確な思想的，組織的萌芽をつくりあげていた。

II-3-1 註

1) 週刊の『人民教師』誌の第9号にその地方通信として掲載されたためである。
2) Минц. Указ. соч., стр. 772.
3) Там же, стр. 766. ソールモヴォ，カナーヴィノは共にニージニ・ノーヴゴロド市郊外の工業地域。
4) Там же ; Э. Н. Бурджалов. Вторая русская революция. Москва. Фронт. Периферия. М., 1971, стр. 168-169.
5) ニージニ・ノーヴゴロド市における，市会議員などから成るブルジョア新権力＝執行委員会，労働者代表ソヴェト，兵士代表ソヴェトの各々の形成と諸闘争及びボリシェヴィキーの闘争については，本稿註Ⅲ-(1), 13), Великая, стр. 225-226; Бурджалов, Указ. соч., стр. 168-173; Минц, Указ. соч., стр. 781-782, 822.
6) НУ, 1917, №. 9, стр. 14.
7) Там же, стр. 14-15.
8) 決議の原文では комиссия по народному образованию の複数である。
9) 原文で複数。
10) 5年制ゼムストヴォ立学校は農村住民にとって初等教育の上級段階であったこと，先進的なゼムストヴォと市では小学校を4，5，6年制に延長しつつあったこと等々。К. Бендриков. Школьная система в России перед Февральской революцией. «Народное образование», 1947, №. 3, стр. 46-47. 第一次大戦中，婦人が工場に出たこと，戦災児の保護の必要から，モスクワはじめ大都市や一部のゼムストヴォでは幼児の保護・教育のための民間の運動があり，施設作りが行われた。См. М. Ф. Шабаева. История педагогики, учебное пособие для дошкольных педагогических училищ. 2-е изд., М., 1955, стр. 236.
11) Минц, Указ. соч., стр. 768.
12) Там же, стр. 770.
13) Там же, стр. 771.
14) НУ, 1917, №. 11-12, стр. 24. 文中下線部分は，原文斜字体の強調個所。
15) 渓内謙『ソビエト政治史』，1962年，31～32ページ。尚，スホードでは農家の戸主のみが選挙権を有していた。
16) Минц. Указ. соч., стр. 858-859.
17) 本稿Ⅲ-(1), 13), Великая, стр. 440; И. И. Минц. История Великого Октября, т. 2, М.,

1968, стр. 150.

18) 一例として，農村では首都や各地で起きている諸事件の詳細も刻々と伝わって来ない事が多かったが，農民の精確な情報への要求は強く，スモーレンスク県ロスラーヴリ郡ルゴフスカヤ郷では，現在の事件を住民に知らせるための特別な委員会を小学教員6名を入れてつくった位であった。 Бурджалов, Указ. соч., стр. 392–393.

19) Бурджалов, там же. стр. 335.

20) Там же, стр. 334; Минц, Указ. соч., стр. 775–776.

21) Бурджалов, там же, стр. 335.

22) А. Н. Геласимова. Указ. статья, стр. 57. この項における極東辺境の小学教員を中心とした教員組合運動の記述は，この回想記事に依拠した。

23) Народное образование в РСФСР, М., 1970, стр. 208.

24) Геласимова. Указ. статья, там же.

25) 革命的な部分 —— タイシン (М. И. Тайшин), シチェペートノフ (С. Щепетнов. 十月革命後，初代の極東辺境教育人民委員), ナウーモフ (И. Т. Наумов. のちイマンニハバーロフスク小学教員組合幹事会副議長), フレゴントフ (А. К. Флегонтов. のち赤色隊左翼指揮官), フェードレツ (П. Ф. Федолец), メドヴェーヂェフ (Г. Медведев)。Там же, стр. 57–59.

26) Профессиональый союз と Профессиональное общество

27) Геласимова. Указ. статья, стр. 58.

28) Там же.

29) すなわち，教員組合はソヴェト政権と協力する途に，教師協会は反革命の途に。(см. ту же, стр. 58–65)

第Ⅲ章 全ロシア教員組合の再建

1) 三大教員大会

1917年の4月4日から6日にかけて，ロシアの三大都市，ペトログラード，モスクワ，キーエフにおいて，教員大会が開かれ，これによって全ロシア教員組合の実質的再建への基盤が固められたことから，われわれはこの三つの大会を「三大教員大会」と呼んでいる。[1)]

4月4～6日,[2)] モスクワにおいて，ВУС モスクワ州ビューローの招集した「全ロシア教員組合モスクワ州組織代議員大会」が開かれ，ВУС モスクワ州支部が成立した。

われわれは大会議事録に当るものを欠くが，大会予告[3)] どおり進められたとすれば[4)] 3日間の大会は以下の点を論議・決定したであろう。

1. 全ロシア教員組合州支部の結成。

а) 規約の改正。

б) 州支部の内部組織 —— 中央事務局，県，郡，地区の各組織，及びそれらの相互関係。

в) 現在の教師協会，教育会その他の教員団体と ВУС 州支部の関係。

г) ВУС モスクワ州事務局の選出。

д) 州支部の「部報 Бюллетень」の発行。

2. 地方からの活動報告。

3. 新ロシアの建設における教員の役割。

住民の憲法制定議会への準備における教員。教員と地方自治体。教員と社会団体委員会。教員と諸政党及び諸組合・同盟。

また，この大会が採択した各決議の各称は —— 「直ちに実行される必要のあるもの」，「臨時政府に対する態度」，「戦争について」，「憲法制定議会」，「学校管理」，「学校立法」，「教員と

地方自治」,「農民へのメッセージ」, 等[5] である。

これらに見る限り，政府，戦争，憲法制定議会に対する見解では，沿海州を除くこれまで取り上げてきた教組のそれと違いはない。

決議「学校管理」は，「各郡の地域的学校管理行政機関……は廃止するに値し，……大会は参加者に，廃止される学校協議会と国民学校視学官制度に代えて，組織教員の代表の入った国民教育臨時公共委員会をつくるよう提起する」と述べており，ニジェゴロトに見た事例と同主旨である。

「学校立法」では，新しい学校制度を創造するため強力な立法活動が必要だが，そのためにBУCは「法案提出の準備に直接に参加しなければならないであろう。……州ビューローは中央と一致して，学校立法の問題での組合の基本的諸項目……の研究に今こそ着手し，次の大会にはその活動の結果を提出する事が必要」と方針を定めている。

もう一つの決定方針は「教員と地方自治」である。ここでは，「近々実施される民主的原理による地方自治機関の根本改革ならびに下級ゼムストヴォ単位の導入は，国民教育の発展にとって巨大な意義を有するに相違ない。現時点の優位性は，教員組合によって利用されねばならない」として，教員組合の郷ゼムストヴォ等への急速な進出が呼びかけられ，更に具体的に，ゼムストヴォや市の選挙に参加すること，それらの下の教育の専門委員会等に必ず入ること，等四本の方針が打出されている。

実はこの大会には教育相マヌイロフも参加し，教育改革プランを述べたのであったが，大会は，基本線では彼に同意しつつも，細目に至っては不満を抱き，教育省まで大会代表団を派遣している。そこでは，大会決議「直ちに実行される必要……」に沿って，すべての学校を教育省管轄として統一すること，教育省自体の機構を民主化すること，等が主張された。[6]

この大会にはこの間のモスクワ・ビューローの奮闘の結果，モスクワ州のみならずヨーロッパ・ロシアのすべての州と県，及びアジア・ロシアの大半のところから[7] 代議員が来ていたため，宿命の，ペトログラートとモスクワの対立が，殆んど全国の代表の眼の前で演じられることになり，教員大衆には不快感ばかりを残すことになった。[8] このモスクワ州大会は，第一次BУCを再建する上で，4月7日からの全ロシア大会にも圧力となったのだった。

4月4～6日，ウクライナ民族運動の中心地[9] キーエフにおいて，「第一回全ウクライナ下級・中等・上級学校教員大会」が開かれた。この大会は，選出された大会議長が劈頭，大会の任務は何よりも国民学校のウクライナ化のための礎をきずく事にあると述べた[10] ことに伺えるように，二月革命後ウクライナの地にほうはいと起ってきた民族運動の一環として理解される必要がある。

二月革命の勝利はウクライナの人民大衆に，ロシア・ツァリーズムによる民族的抑圧からの解放への希望をもたらした。ウクライナの民族的な文化・啓蒙の，学術の，学生の，サークルや諸団体の活動が，そして諸政党の活動が活発になった。ウクライナ人の集会が開かれたなら，そこでは必ずといって良いくらい，ウクライナ語新聞の発行や，ウクライナ語の学校の創設，等々の要求が出されてきた。

3月4日にはキーエフで，学術団体や教員団体，農業技術・生協・学生その他の組職や団体の代表たちが集まり，ウクライナ中央ラーダ（Рада＝совет）を結成した。これが，この後の「ブルジョア民族運動」の中心となっていく。

臨時政府は，ロシアのカデット，エスエル，メンシェヴィキーと共に，ウクライナの自治要求も拒否していたから，ウクライナの抑圧された民族の運動は小ブルジョア政党に指導されて，革命は志向していなかったが，民主主義的，進歩的性格を帯びていった。小学校の教員から大学教授まで約400名が同席する[11] 全ウクライナ教員大会の成立の事情は，そのことに求められる。

大会がマヌイロフにあてて打ったウクライナ語の電報は「ウクライナの教師は，臨時政府の命令が，人民のかち取った自由の確保と発展とかかわり，且つ地域＝民族的自治の原則に基づいて初めて可能となるウクライナ人民の全要求の充足にかかわっている限りにおいて，すべて支持することを自己の義務と見做すものです。」[12] と述べて，この大会と同じキーエフで開かれている（4月6～8日）「全ウクライナ民族大会」が決議した要求[13]「民族＝地域的自治」と同一の自治の要求を表明している。

大会にはきわめて多数のメッセージが寄せられた。――ウクライナ中央ラーダ，ウクライナ啓蒙普及協会，ポドーリスク県ゼムストヴォ参事会及びポドーリスク「光明 Просвіт」，ヴォルィニ教員大会，キーエフ県教員共済組合，ウクライナ社会革命派，ウクライナ学生ラーダ，中央ウクライナ生活協同組合，その他多数の団体・個人からであった。[14]

ウクライナ中央ラーダ議長，グルシェフスキー（М. С. Грушевский）教授の演説は嵐のような喝采を呼びおこした。かつて1913/14年の全ロシア教育大会に参加した廉で学校を追放された著名なウクライナ人教育家プロコポーヴィチ（В. К. Прокопович）も壇上で，自分がウクライナの組織された教員として発言したために弾圧されたことを誇るのだった。[15]

大会は最終日，「ウクライナ民族学校の発展と教員の生活状態の改善のために，今こそ『全ウクライナ学校組合 Всеукраінське шкільне товариство』の支部網を結成する……。」にはじまる「下級学校にかんする決議」[16] を採択した。

4月5日，ペトログラート商業学校の一室に，さまざまの団体から150名以上が出席し，北部諸県とバルト海沿岸県の教員団体代表大会が開かれた。[17] 開会はペトログラート教組の代表ロパートニェフ（М. П. Лопатнев）が行い，議長は ВПО 議長のゾロタリョーフ（С. А. Золотарев）であった。

大会では，ペトログラート，リフリャント，エストリャント各県の種々の教員団体からの活動報告が行われた。ほとんどすべての代表が，地方の教員集会では，共和政体の実現を要求する決議，戦争の勝利的終結まで完遂の支持決議，国民学校視学官制度の廃止要求の決議が行われたと報告している。

翌6日の最終会議において，全ロシア教員組合北部州組職の規約草案が規約委員会から報告され，討論の後，大会はこれを採択した。

それに依ると，北部州組織に加入しているのは，ペトログラート，オローネツ，アルハンゲリスク，ヴォログダ，ノーヴゴロト，プスコーフ，ヴィーチェプスクの各県及びリフリャント，エストリャント，クルリャント，の沿バルト3県，以上計10県の教員組合と教員諸団体である。州組織に加入している教員組織の全構成員が即ち州組織の構成員である。州組織の機関は，教員団体代議員大会及び州評議会 областной совет である。

大会は，教員はあらゆる手だてで，臨時政府の「自由の公債」を住民の間に普及するため，努力しなければならないという決議を満場一致で採択した。この「公債」は，戦争遂行の

資金をつくるために臨時政府が，3月27日，発行を決定したものである。[18]

この大会では同時に，臨時州評議会選挙が行なわれ，ヴァシーリェフ（Васильев），ゲールト，ドゥシェチキン，ゾロタリョーフ，ロパートニェフら，13名が評議員に，アブラーモフ（И. С. Абрамов），グレーヴィチの息子ア・ヤ・グレーヴィチ（А. Я. Гуревич）ら，6名が評議員候補に，それぞれ選ばれた。

III-(1) 註

1) Russian schools, p. 121.
2) НУ, 1917, №. 11-12, стр. 1. 3月中には4月4日～5日の二日間を予定していた。
3) НУ, 1917, №. 9,стр. 5.
4) 同誌のモスクワ大会収録個所7ページ分を，マイクロフィルムで欠くためである。
5) НУ, 1917, №. 11-12, стр. 17-18.
6) Russian schools, pp. 121-122. ; НУ, там же.
7) Там же, стр. 17.
8) Там же, стр. 24. 4月9日モスクワ県の北西隣のトヴェーリ県ノヴォトルジョーク郡の教員総会で報告された，モスクワ州大会参加教師たちの印象から。
9) Бурджалов. Указ. соч., стр. 249. 本項の民族運動にかんする記述の根拠は，同書，стр. 248-250.
10) НУ, 1917, №. 11-12, стр. 19.
11) Там же.
12) Там же.
13) Великая Октябрьская социалистическая революция. Революционное движение в России в апреле 1917 г. Документы и материалы. 1958, М., стр. 696.
14) НУ, там же.
15) Там же, стр. 20.
17) НУ, 1917, №. 11-12, стр. 21-22. 本項の記述はすべてこの記事に基づく。
18) 註13), Великая, стр. 443.

2) 全ロシア教員組合再建大会

4月7日ペトログラート商業学校大講堂において，「全ロシア 教員組合創立・全ロシア教員団体代表者大会」が開かれた。シベリヤを含むロシア各地から代表800名以上が参加した[1]。大会は最終日の9日，「全ロシア教育会」を，「全ロシア教員組合」に改組することを決定し，規約を採択し，再建の手続きを完了した。

大会日誌ふうに主な登場人物を列挙しよう。

〔夜の会議—— 6日〕臨時政府法相ケレンスキー（のちに首相，エスエル）と蔵相テレーシチェンコ（親カデット）の演説。

〔大会初日—— 7日〕ゾロタリョーフ（全ロシア教育会議長，親エスエル）の開会の辞，チャルノルースキー（В. И. Чарнолуский エヌエス中央委員）の大会議長就任挨拶。副議長 ゾロタリョーフ，イォルダンスキー。書記 クルヂャーエフ，アブラーモフ。モスクワ州事務局のイォルダンスキーと1905年の教員大会の全ロシア・ビューローのドゥシェチキン，ペトログラード学区総監ヴォーロノフ教授，およびエスエル幹部フィグネルの挨拶。ピンケーヴィチとゲールトの「憲法制定議会について」の報告，同じく，グレーヴィチの「学校改革について」の報告。

〔大会第2日—— 8日〕教育相マヌイロフの演説とそれへのチャルノルースキーとゾロタリョーフの発言。古参エスエルのブレシコ＝ブレシコーフスカヤの挨拶。

〔大会最終日—— 9日〕ペトログラード労兵ソビエト執行委員ソコローフ（メンシェヴィーク）とイギリスの社会主義者センバーグの挨拶。大会決議「教員と憲法制定議会」他と全

ロシア教員組合規約の採択。

一見して，エスエルを中心としたナロードニキの優位が明白である。エスエルの著名な女性活動家，ブレシコ＝ブレシコーフスカヤとフィグネルはこの大会で名誉会員となり，同じくエスエルの法相ケレンスキーは名誉組合員となった。ボリシェヴィキはといえば，亡命先から戻ったばかりのクループスカヤが出席していたものの「取るに足らない少数派」[2]で，大会では見る影もない存在であった。

大会議長となったのは著名な教育活動家チャルノルースキーであった。実際，再建大会の議長としてこれほどふさわしい人物はいなかった。彼こそ1905～7年の第一次全ロシア教員組合の4回の非合法大会を通して議長をつとめたその人であった。しかし，有名な彼の議長就任挨拶，「今日までロシアの教員は控え目に過ぎた。……諸改革は，その下からの可能性に先んじるために，上から行われなければならない」[3]——これはあきらかに，二月革命後，下からの革命の炎が一層燃え上ることを何よりも恐れている者の発言であった。

学校改革案作成機関の設置要求　教育相マヌイロフは，その演説の中で説得力も実現の見通しもない学校改革のプログラムを述べたが，これにはチャルノルースキーも即刻の改革を要求して反論し，会場から万雷の拍手をあびた。しかし，マヌイロフは「我々が新学年〔9月〕を改革への準備のできた学校で迎えるのを望んでいるとしても，性急なやり方を要求してはいけない」[4]と，自称「臨時の執行者」の発言をくり返すのみであった。ゾロタリョーフは，マヌイロフの発言に反撥し，教育省は「チェルヌィシェフ橋」のところにあるのではなく，この大会ホールにあるのだと言って学校改革の実権を全ロシア教員組合に移すよう要求した。

こうした論議を背景に，大会最終日に，教育省の下に学校改革案を作成する機関を設置する決議が採択された。「全ロシア教員代表大会は，国民教育の利益の見地から，教育省の下に次のような構成になる協議会が直ちに結成される事が非常に重要であると認める。——国会執行委員会代表1名，全ロシア教員組合及び全国ゼムストヴォ・都市連合の選出代表各複数名，同じく全ロシア農民同盟，生協連合，労・兵代表ソビエト，及び各種民族団体，以上の各代表。これに参加する全ロシア教員組合の全権代表（複数）は，諸改革及び期限付きの性格を有する諸方策を最短期間に実現することに自らの活動を集中しなければならない。」[5]

この決議にもとづいて4月末から結成準備活動が始められ，5月半ばから，教育省の下に，「国民教育国家委員会（Государственный комитет по народному образованию）」が活動することになった。

なお，全ロシア教員組合の新委員長（＝組合評議会議長）には，エスエルに近いゾロタリョーフが就任した。

再建全ロシア教員組合の性格　本大会の最重要課題の一つ，組織確立の手続きにかんして，大会は，1905～7年に第一次全ロシア教員組合が最終的に獲得した規約（1907年6月18～24日，第4回大会採択）を基本的に踏襲している。これは，エスエルの影響の強かったモスクワ州支部代表らの努力の成果であった。たとえば，規約第1条には，1907年のそれと一字一句違わない教育要求を掲げ，組合の基本的任務として「教員の権利上の，及び文化的，経済的利益のための，労働者階級のあらゆる階層の同様の闘争と調和した闘争」を掲げている。また，

教育要求の内容も1907年規約を忠実に襲っている。[6] それ故，この10年間の教育環境の変化を考慮に入れていないことになる。もちろん，ブルジョア民主主義革命をさらに発展させる見地からの教育要求の発展はみられない。教育環境が反動の強化とブルジョア思想の浸透の強化を受けた中で，1907年の成果を守ったことも一つの進歩とみなければならないかも知れない。

一方，再建組合の後退的性格を象徴的に示す変化は規約にみられる。第一次全ロシア教員組合において1905年から1907年にかけて最大の論争点であった，組合員の思想・信条の自由，政党支持の自由について，1905年の成果（エスエルとボリシェヴィキーの妥協の産物とはいえ）である，政治的綱領の採択や政治的決議について「個々の組合員は，これらすべての問題に関して，自らの政治的信念と政党の指令に従って行動する権利を保持する」を含む核心的条項が削除され，代って「代議員大会は，予め日程に上せてあったすべての問題について，三分の二の多数で，……全組合員と全組合機関とにとり義務的な決定を採択することができる」[6]とした。かくして小ブルジョア政党の常とする自己の政党活動の弱さを労働組合その他の大衆的団体の活動によって代替する可能性を再建された全ロシア教員組合ももつこととなった。この条項は，組合員の除名が1907年規約よりも容易になったこととあいまって十月革命後にボリシェヴィキー組合員の除名ならびにソビエト政権への反革命政治ストライキの発動に用いられることとなる。

このような規約上の後退は，再建組合内でのボリシェヴィキーの影響力の決定的減退の結果であった。再建された全ロシア教員組合の性格は，組合の下部構成員としてはプロレタリアートに近い教員層を結集していた（十月革命時で全教師の約30％を結集）とはいえ，実体としては，ペトログラート教組とそれに導かれる北部州支部のようなブルジョア的団体，ウクライナの如きブルジョア民族主義支持団体，モスクワ州支部のような小ブルジョアジーを基盤としたものであり，これらから成る連合体，すなわち，職能組合連合体と規定し得るであろう。

なお，第一次ロシア革命のさいには全ロシア教員組合とは別個の独自の組合を結成した（1906年2月9日）中学校の教師たちは，二月革命後は，全ロシア中等学校教員組合召集のモスクワでの中学校教員大会において，全ロシア教員組合（ВУС）が，すべての段階とタイプの学校の教職員を包括する全ロシア的団体となるべきであると決議し，かりに地方においてあれこれのタイプの学校の独自の利害で組織が分れるとしても全ロシア教員組合の枠内で行われるべきであるとして，中学校教師の独自の全ロシア的組合はつくらないこととした。かくして，それぞれが全ロシア教員組合の支部として，たとえば，モスクワには「中学校活動者組合（Союз деятелей средней школы）」が，ペトログラードには「ペトログラード教員組合中学校支部（Отдел средней школы Петроградского учительского союза）」がつくられた。[7]

III-(2) 註

1）НУ, 1917, №. 11-12, стр. 3-6, 8.
2）Н. К. Крупская. Педагогические сочинения, т. 1. М., 1957, стр. 409 и 492-493 примеч.
3）НУ, 1917, №. 11-12, стр. 3.
4）Там же, стр. 8.
5）НУ, 1917, №. 13-14, стр. 4-5.
6）Там же, стр. 7-8. 強調点は引用者。
7）НУ, 1917, №. 15-20, стр. 4 ; Ф. Ф. Королев. Очерки по истории советской школы и педагогики (1917-1920). М., 1958, стр. 127.

結　び

以上みてきたように，1917年二月革命期の全ロシア教員組合の再建は，この革命の前夜の混迷せる教員運動内部において既に明確にめざされていたものであった。また，その準備母体たる互助会的教員活動に対しては，専制政府内のリベラルな教育大臣と，ブルジョアジーが主導権を握っていた地方自治体とによる支援が存在した。そして，右の全体を側面から促したものは，ブルジョアジーには統治力を与え，教員に対しては生活救済のための組織化を余儀なくさせた，第一次世界大戦であった。

こうして再建された全ロシア教員組合と各地の教員組合は，二月革命によってかち取られた市民的諸自由をロシア教員大衆が行使してゆく恰好の舞台となった。

他方では，互助会運動と教員組合運動とを通して，教師たちの運動は，ニージニ・ノーヴゴロド県教員組合の諸決定にみられたように，ロシアの教育改革の諸原則の内容を豊富化し，さらに，改革のための行政的参加へのプランを実践的で詳細なものへと発展させたのであった。

最後に，こうした過程を経て再建された，1917年の全ロシア教員組合の組織的性格の歴史的意義についてまとめておくことにする。すなわち再生全ロシア教員組合は，実体としては，運動の性格を三様にしてゆく北部州組織，モスクワ州ビューロー，全ウクライナ組合の三大組織を基盤としつつ，さらに中等学校教員の組合をも翼下に入れる，職能組合的連合体となっていた。そしてこの連合体の組織原則は，各地域教員グループと呼ばれる教員組合組織から選出される全権委任代議員による大会を最高議決機関と定めていることをはじめ，執行機関，中央指導機関の位置付け等々を考慮に入れるならば〔附録資料を参照〕，それは，ほとんど，民主的中央集権制によって機能する，現代の階級的労働組合の組織原理に近いものであった。この点については，やはり，ロシアにおける政治的な諸対立の激化によってきたえられ，見出された形態と言うべきなのであろう。

そこで，第二に指摘すべきことは，1907年規約では第23条，1917年規約では第25条の，代議員大会における「義務的決議の採択」の許容範囲についてである。再建された全ロシア教員組合はエスエル派の大きな影響の下に「すべての問題」を決議しうると規定することにより，政党と労働組合のそれぞれの独自の役割を混同，あるいは否定したのだった。このことは結局，第一次ロシア革命期において，教員組合を階級的労働組合たらしめようとする主張と共に，ロシア社会民主労働党ボリシェヴィキーによって，政党組織と無党派大衆団体の相互の独自性に対する自覚がロシアにもたらされれていた* ことを考慮に入れるならば，上の近代的組織原則にかんして史的退行現象が教員大衆の自覚度合いによってもたらされたことを意味したのであった。

* とくに第4回全ロシア教員大会（1907年6月18～24日）における教員組合の決議のあり方について，参照。В. И. Ленин. Против войкота. Полн. собр. соч. 5-е изд. Т. 16, стр. 3-4. 邦訳（「ボイコットに反対する」，『全集』，第13巻，3ページ）も参考。

附録——資料：　全ロシア教員組合規約（1917年4月7～9日採択）

第1条　組合が自己の基本的任務とするものは，次のとおりである。

ア）教育の自由・民主主義・地方分権の原理に基ずき，ロシアの国民教育事業の根本的改革をめざした闘争。これらには次のような原則の実現が含まれる。㋐普通・無償・義務・初等教育の導入。㋑真の全員就学を保障する措置。（小学校生徒への教科書・学用品・衣服・食事その他の無償支給）。㋒あらゆるタイプの学校における住民の母語での教育。㋓上級タイプの普通教育学校が下級タイプの学校の直接の継続となるような，学校のすべてのタイプの調和。㋔すべての教育段階での教育の無償化の実施。㋕宗教教育の私事性の承認。公立学校の課程からの宗教教育の除外。㋖当該学校段階の教授学習要領の遂行の際の教授の自由の確立。教科書，参考書，生徒読書用図書の検閲の廃止。㋗性・民族・宗教・身分と結びついた，教育における一切の制限と特権の根絶。㋘諸学校の卒業に伴う権利と特典の廃止。㋙すべての教育機関における男女共学。㋚学校教育と校外教育における私的イニシャチヴの自由の確立。あらゆるタイプの教育機関及び学習施設の開設の事後承諾制の確立。㋛普通教育機関の課程の継続としての職業教育，専門教育の編成。㋜国民教育事業の，普通・男女無差別・平等・直接・秘密投票による，地方自治体及び民族機関への移管。㋝国民教育管理機関に対する成年住民の学習要求の充足の義務化。

イ）教員の権利上の，及び文化的，経済的利益のための，労働者階級のあらゆる階層のこれと同種の闘争と調和した闘争。

第2条　組合は，自己の任務を実現するために次のことを行う。㋐立法機関，地方自治体，上級の及び地方の学務行政機関，及びあらゆる種類の社会団体に対して自己の理念を主張する。㋑講演，講習会，出版，図書館，展示会，大会等を通して自己の理念を教員と全住民の間に普及する。㋒互助会，職業紹介局，サナトリウム，教員の法律的援助等を組織する。㋓学校と教員生活の問題にかかわるありとあらゆる情報・調査書・統計資料を蒐集・刊行する。㋔組合規約に示された原則に立って国民教育の諸問題を検討し，今日の学校体制を審議する。㋕教員の集団行動を組織する。㋖教師と生徒の権利上の利益を擁護する。

第3条　組合は，次の教員組織によって構成される。㋐各地のグループ（地区，郡，県）。㋑州組織。㋒組合特別部。

第4条　グループ，州組織，組合特別部の内部の編成と活動は，組合規約の範囲内でそれらの判断に委ねられる。

第5条　自己の規約，一定の会費，総会，執行機関，及び，組合規約の承認によって生じるすべての権利と義務をもった組合内代表権，これらをもつ教員組織に加入している個人はすべて，組合員とみなされる。

第6条　新しいグループは，その規約ならびに構成員と活動に関する報告書を提出の後，組合執行機関の決定を経て組合に加入する。

第7条　各地の組織は，毎年，構成員数と資金状況を示しうる報告書を組合執行機関，評議会に提出する。また，そこからの提起があれば，自己の活動に関してさらに実状報告を行う。各地の組織は，組合発行機関誌の義務的購読者である。

第8条　協同組合，民族団体，政党部等の組合内特殊組織は，特別部を構成する。但し，特別部は特定した地域をもたないこともできる。特別部は第6条の手続を経て組合に加入する。

第9条 州組織は，相隣接の諸グループによって構成される。各々の新しい州組織は，組合評議会によって承認される。

補足——グループは州組織に加入の際，そのことを組合評議会に報告する義務がある。

第10条 州組織は，次のことを受け持つ。組合員に対する物質的及び法律的援助，共済保険組合の設置，評議会の発行する組合の文献の各グループへの配布，図書室の設置，講演会その他啓蒙活動及び文化的相互援助の実施，派遣された委員もしくは代理者の援助の下に新しいグループを組織，等。

第11条 組合員は，名誉に反する懲罰を受けた場合及び組合の目的にそむく計画的反対行動をとった場合，組合から除名されることがある。除名は，個々の組合員及び個々の組合機関に対して提起されうるもので，当該組合員の所属する組合グループによって行われる。除名問題を提起された組合員に対しては，自己の釈明を行う機会が与えられなければならない。除名問題の決定のためには，秘密投票とグループ構成員総数の三分の二以上の多数が必要である。

グループによって組合を除名された組合員は，組合名誉法廷あるいは組合代議員大会に対してアピールすることができる。

グループからの構成員の除名は，組合評議会に報告される。

第12条 組合グループは，組合の目的にそむく計画的反対行動をとった場合，組合から除名されることがある。組合構成員からグループを除名する問題は，組合代議員大会によって決定される。但し，秘密投票と大会構成員総数の三分の二以上の多数が必要である。

第13条 組合の資金は，次のものによってまかなう。㋐各グループの組合費収入の10パーセントの比率でグループが納める年間納付金。㋑寄付及び組合の事業・建物収入。

第14条 組合の中央指導機関は，次のものである。㋐各地のグループ及び組合特別部から選出された代議員の大会。㋑この大会で選出される，組合評議会，相互保険組合中央委員会及びその他執行機関。㋒中央代表会議（協議会）。

第15条 大会代議員は，組合グループあるいは特別部の全構成員の直接投票によって選ばれる。代議員の任期はグループによって決められる。

第16条 個々の組合グループあるいは特別部の選出代議員の数は，選挙の時点で組合費を納入しているその所属組合員の数に比例していなければならない。その比率は，代議員大会がこれに関する特別の指示を行わない時は，組合評議会が，各大会について定める。いかなる個人も，各地のグループと組合特別部との両方で同時に投票権をもつことはできない。また，二つのグループあるいは二つの部における場合も同様である。

補足——代議員1名を選出するために必要な構成員数をもたないグループは，選挙のために他のグループと合同することができる。

第17条 その下部構成の諸グループがそれぞれ代議員を送っているような上級の組合機関は，代議員大会においては，評議権のみもつことができる。

第18条 組合代議員大会には定期大会と臨時大会とがある。定期大会は1年に1回開かれる。臨時大会は，定期大会及び評議会の決定に基ずいて招集され，また，組合員総数の三分の二以上を包括する組合グループの要求に基ずいても招集される。各定期大会の開催地は，評議会によって指名される。

第19条 大会組織委員会の任務は組合評議会によって遂行される。各大会は評議会議長によって開会される。その後，大会は大会議長1名，同副議長2名，同書記数名を選出する。

大会の会期中は，大会組織委員会の構成には，大会議長，同副議長，及び大会が設置している各分科会の議長が加わる。

第20条　大会において議決権を行使できるのは，各地のグループ及び組合特別部から選出された代議員ならびに組合評議会メンバーである。

第21条　代議員大会は組合の最高立法機関である。

第22条　代議員大会の任務は，次のとおりである。㋐評議会によって提出された決算，予算，報告の審議と承認。㋑財産の獲得，借入，譲渡の問題の解決。㋒評議会と監査委員会の選出。㋓組合各機関に対する各種の方針の承認。㋔第12条に基ずくグループの組合除名。

第23条　代議員大会には，すべての問題が評議会を通じ，独立した報告書をもって提起される。

第24条　大会では，決定のために大会構成員総数の三分の二の多数を必要とする規約の改正，組合の解散及び第12条，第25条の問題以外は，単純多数決によって決定が行われる。

第25条　代議員大会は，予め日程に上せてあったすべての問題について，組合の名の下に行動する限り全組合員と全組合機関にとり義務的な決定を，三分の二の多数で採択することができる。

第26条　組合評議会は，組合員のなかから，代議員大会で選出され，評議員18名と評議員候補6名によって構成される。その任期は2年とし，毎年その半数が改選される。最初は籤引によるが，以後は順送りである。

第27条　組合評議会は，代議員大会の執行機関であり，組合のすべての各地の組織及び特別部の活動を統一する。

第28条　評議会の任務は，次のとおりである。㋐組合のその諸目的の達成と，組合組織全体の行動の調和とに対する配慮。㋑組合の財産の管理。㋒組合役員に対する方針の作成及び彼らの活動の監督。㋓決算，予算，報告の作成及び代議員大会の準備。㋔各地のグループと組合員からの申請の検討。㋕協議会と大会の組織。㋖代議員大会決定の遂行。㋗組合の業務について諸団体・個人と交渉・連絡。㋘ロシアの内外で組合を代表する。㋙組合勤務員の任用と解雇。㋚新しい組織，グループ及び特別部の組合加入の承認。

補足——評議会はその活動を，代議員大会が定める方針に従って行う。

第29条　評議会は，その構成員のなかから秘密投票によって議長と会計を選出する。同様にして組合書記1名を選出する。評議会は彼らに対する方針を定める。評議会のその他の職務は互選によって構成員のあいだで分担される。

第30条　評議会は，組合のさまざまな機能の遂行のために，専門委員会を設置する権利をもつ。また同様に，組合員のなかからの人物で評議員を補充する権利をもつ。このようにして互選で補充された人物は，評議会においては，発言権のみをもつ。彼らは1人づつ，秘密投票によって選出され，評議会構成員総数の三分の二以上の多数を得なければならない。

第31条　評議会の活動範囲に属するヨリ重要な事項の解決のために，及び代議員大会が特別に定めた事項のために，評議会，州組織代表及び組合特別部代表によって構成される中央代表会議が定期的に招集される。代表会議の構成には，州組織と組合特別部の代表が2名づつ加わる。代表会議における議決権は，州組織と組合特別部の代表すべてがもつ。

補足——代表会議には，①組合のその他の機関と組織の代表，及び②その他の教員組合の代表に対して，評議会が，参加を求めることができる。

第32条 中央代表会議は，評議会を除いて，組合州組織と特別部のうちの過半数がここに代表を派遣している場合に，合法的に成立したとみなされる。代表会議の議事は，この成員のなかから代表会議で秘密投票によって選出された人物を議長として行われる。代表会議においては単純多数決によって決定が行われる。

第33条 中央代表会議は，評議会の決定，代表会議の決定，及び州組織あるいは組合特別部の計五団体以上からの要求，これらのいずれかに基づき，評議会によって招集される。

第34条 組合員による共済保険組合は，代議員大会によって承認される独自の定款に基づいて活動する。

第35条 組合の下に名誉法廷が設置される。この法廷は，代議員大会によって承認される独自の規程に基づいて活動する。

第36条 組合業務にかんする書類の取扱いは，評議会議長と書記の署名に基づいて行われる。組合の名による契約，債務及び委託は，評議会議長あるいは同副議長と2名の評議員によって署名される。

第37条 組合は自己の刊行物をもつ。

第38条 組合は，財産の獲得と移譲，契約と取引の取り決め，評議会が委任した人物を通しての法廷における自己の利益の擁護，これらの権利をもつ。

訳註 出典：«Народный учитель», 1917, №. 13-14, стр. 7-9. なお，この雑誌上では第1，14，22，23，24，26，28の各条にわたり大小10個の誤植が見出されたが，この規約に先立つ1907年採択の規約条文と比較判断することによって解読された。それをその都度表記することは不要と考えた。